

12月は疾病予防と治療月間です

RI 第2820地区

# 水海道ロータリークラブ



2024-25年度 ステファニー A. アーチック RI会長

例会予定 12月18日 各委員会中間報告  
12月25日 休会

VOL.62 No. 15 (通算No. 2740)

2024年12月11日(水) 例会プログラム  
点 鐘  
君が代・ロータリーソング  
ビジター紹介  
出席報告  
SAA報告  
諸報告  
幹事報告  
会長挨拶  
各委員会中間報告



写真提供者:青木正弘会員

2024-2025年度 会長 五木田裕一

幹事 大澤 清

創立 1963年9月25日

《例会場・例会日》

〒303-0034 茨城県常総市水海道天満町4684  
常総市生涯学習センター2F 研修室  
毎週 水曜日 12:30~13:30 ☎0297-22-1111

《事務所》

〒303-0023 茨城県常総市水海道宝町3386  
釜久ビル3階  
Tel 0297-30-0875 Fax 0297-30-0876  
Email [mitsu-rc@lapis.plala.or.jp](mailto:mitsu-rc@lapis.plala.or.jp)  
URL <http://www.mitsukaido~rc.jp/>

## 12月は疾病予防と治療月間です

例会報告 VOL.62 No.14 (No.2739) 11月27日(水) 晴れ (司会 淀名和茂彦副委員長)

本例会での主な事項

◎会長あいさつ

◎外部卓話

JICA 筑波センター 小澤正司様

### ビジター

独立行政法人国際協力機構(JICA)筑波センター地域連携アドバイザー小澤様

独立行政法人国際協力機構(JICA)筑波センター連携推進課野口様

独立行政法人国際協力機構(JICA)筑波センター同専門嘱託情野様

海外青年協力隊 OBJICA 本部前情報システム課長河内様

### 幹事報告 大澤 清幹事

週報 なし

例会変更 なし

### 会長挨拶 五木田裕一会長



皆様こんにちは。11月第3回例会のご挨拶を申し上げます。

本日は独立行政法人国際協力機構(JICA)筑波センターから地域連携アドバイザーである小澤様、同連携推進課の野口様、同専門嘱託情野様、高校時代の友人で、海外青年協力隊 OB であり JICA 本部の前情報システム課長の河内様、ようこそいらっしゃいました。会員一同歓迎申し上げます。また小澤様には本日の卓話をお願いしております。なお少々先の話になりますが、来年2月8日、JICA 筑波センターの高橋所長にも卓話をお願いしております。海外での援助活動や実際の状況、紛争当事国における現状など、豊富な知識と経験に基づくお話を頂ければと思います。

本日は少し気軽な話を申し上げたいと思います。11月の第3木曜日は、ボジョレーヌーボーの解禁日です。今年は先週の21日でした。今年の出来はと言いますと、春から夏まではやや天候不順気味だったようですが、収穫期を迎え気温が上昇し順調に熟成し、有望なヴィンテージになる事が予想されるという事です。9月頃の晴天のおかげで状況はさらに改善しており、ブドウの状態も極めて良好で、期待は高まるばかり、とされております。もっとも、例年「よく出来た年」「有望な年」等ポジティブな表現が使われる事が多く、市場を意識しているのかなと思わせる事も多々あります。

ボジョレーヌーボーは新酒ですから、新しいうちに楽しむのがベストと言われております。産地はブルゴーニュ地方、品種はガメイです。一般的にはブドウを破碎し、発酵させ熟成させます。これに対しボジョレーヌーボーは、発酵過程で二酸化炭素を用います。ブドウを入れた発酵タンクに二酸化炭素を充填し、酵母によるアルコール発酵と共にブドウ細胞内の酵素による発酵が行われます。すると、色素がきれいに出る事や渋みが少ない事、キャンディーのようなフルーティーな香りが出る事、そして何と言っても数週間で商品化できる事がメリットとされているようです。一方、長期熟成にはあまり向かないと言われております。

またワインは「当たり年」、「外れ年」があります。ブドウも農産物ですから、自然状況に大きく左右されるのは仕方ありません。生産年の良否については、ワイン評論家や雑誌が点数を付けており、選ぶ際の目安になるのも事実です。因みに私の生年である1968年ですが春先から雨が多く天候不順が続き、困難で散々な年と言われております。以上、挨拶を終わります。

# 12月は疾病予防と治療月間です

## 外部卓話

独立行政法人国際協力機構 (JICA) 筑波センター地域連携アドバイザー 小澤正司様



JICAの国際協力を通じた  
開発途上国支援からの教訓

2024年11月27日  
国際協力機構 (JICA)  
筑波センター 地域連携アドバイザー  
小澤 正司

独立行政法人 国際協力機構

JICA 本日の内容

1. 自己紹介
2. JICA紹介、筑波センター紹介
3. 失敗と教訓
4. 国際協力の教訓の積み重ね
5. 教訓の結論
6. 私達にできること
- (7) (時間があれば) 海外安全対策確学

(なお、本講演および資料の内容は、全て講演者の個人的見解であり、JICAの公式見解を示すものではありません。)

独立行政法人 国際協力機構

JICA 1 自己紹介

小澤正司 (おざわしろうじ) 奈良県出身

1983年 大学休学 最年少で、青年海外協力参加 (モロッコ)

1987年 JICA (国際協力事業団) 入団 (2003年～国際協力機構)

在外駐在: ①ホンジュラス事務所 (所長) ②ベルギー事務所 (次長) ③ドミニカ共和国事務所 (所長) ④キューバ事務所 (初代所長) ⑤チリ支所 (支所長)

JICA人生38年目 (海外18年、国内19年)

独立行政法人 国際協力機構

JICA 2 国際協力機構 (JICA) 紹介

1. 独立行政法人 国際協力機構  
Japan International Cooperation Agency (JICA)
2. 設立: 2015年10月1日 (前身 特殊法人国際協力事業団 1974～)
3. 職員: 1,979人 (海外のJICA関係者は、常時8,000～10,000人)
4. 資本金: 8兆4,395億円
5. 設立目的: ODAを基に、開発途上国の経済・社会の開発・安定に寄与し、国際協力の促進並びに我が国と国際社会の健全な発展に資する。(国際協力機構法第1条)
6. 主な業務: 技術協力、有償・無償資金協力、海外協力隊、日系人支援、緊急援助隊等
7. 拠点: 本部、国内15センター、海外96拠点、対象国139ヶ国 (ODA=政府開発援助、1954年援助スタート、70周年、日本は同時に1953年、世銀から援助される国としてスタート、1990年完済)

独立行政法人 国際協力機構

JICA 2 国際協力機構 (JICA) 紹介

海外拠点 (2024年10月現在) (2024年7月現在)

アジア: 25拠点  
大洋州: 10拠点  
中・南米: 14拠点  
アフリカ: 38拠点  
中東: 8拠点  
欧州: 3拠点  
合計: 106拠点

独立行政法人 国際協力機構

JICA 2 JICA筑波センター紹介

1. 設立: 1996年 (元は1961年茨城県国際農業研修会館)
2. 目的: 開発途上国からの農業技術研修員の受入れ (約900人/年) を中心に、以下の7事業を実施 (海外向けと国内向け事業)
3. 所管: 茨城県、栃木県
4. 特徴: 国内拠点15の内、唯一、園地や研究施設を併設、200名宿泊可。また、海外拠点との連携による外国人材受入支援に注力。  
「選ばれた茨城県」を支援

プログラム	パートナー	地方自治体	大学・教育機関	研究機関	企業・産業界	海外からの国際協力機関	海外からの国際協力機関の受入れ (研修員受入れ)	海外からの国際協力機関の受入れ (研修員受入れ)
技術協力研修員受入事業		○	○	○	○	○	○	○
国際農業研修員受入事業		○	○	○	○	○	○	○
上記の研修員受入事業 (協力隊)		○	○	○	○	○	○	○
研修員の技術研修事業		○	○	○	○	○	○	○
国際農業研修員 (中・小企業支援)		○	○	○	○	○	○	○
研修員受入研修員 (研修員受入研修員)		○	○	○	○	○	○	○
研修員受入研修員 (研修員受入研修員)		○	○	○	○	○	○	○

独立行政法人 国際協力機構

JICA 3 失敗と教訓

本日のメインテーマ

JICAの国際協力の実績・知見から、水海道ロータリークラブ様の国際貢献活動に活かせる教訓はあるか?

独立行政法人 国際協力機構

JICA 3 失敗と教訓

JICA事業の失敗事例

1. 工事現場の人の遅刻 (貧困、時計、教育) ⇒ 5、2、4
2. アフリカ某国での深井戸掘削・供与 (井戸ポンプ、井戸組合、掘削機、掘削ポイント) ⇒ 3、4、2、1、5
3. カリブ某国で水産市場建設 (建設場所、冷凍機器、漁業組合) ⇒ 1、2、3、4、5

独立行政法人 国際協力機構

JICA 3 失敗と教訓

失敗の共通点 (援助する側)

1. 言いっ放し (約束、合意、指示) ⇒ ドヤ顔で一方向!
2. あげっ放し (資材、物、システム、情報) ⇒ ありがたく黙ってもらえ!
3. 作りっ放し (建物、組織) ⇒ 立派なものを作ってやった! 自己満足!
4. 教えっ放し (研修、指導) ⇒ 教えてやる! よく聞いて日本から学べ!
5. 思い込み (情報、既成概念) ⇒ 日本ではこうだ! こうあるべきだ!

失敗しない共通点 (援助される側)

- ⇒ 寄り添いと、伴走が必要 (放たれては自走できない)
- ⇒ 一定期間、資金・技術と、情報 (オン・オフ) と、感動 (恩恵) が必要
- ⇒ アウトプットではなく、アウトカムまで見据える必要 (清潔な水が出て飲めるまでではなく、出てきた水を誰がどう活用し、その活用で、誰がどう幸福になるか、までを描く。幸せの継続も。)

独立行政法人 国際協力機構

JICA 4 国際協力の教訓の積み重ね

1. 「釣り」に例える国際協力の変遷 (初級編)
- ① 飢えた村人に、魚を直接与える (目の前の、飢えを救う) ⇒ 物
- ② 村人に、釣り道具を与え、釣り方を教える (もたらす (援助慣れ) にならないように) ⇒ 物と技術
- ③ 村人に、釣り道具の作り方、メンテナンスを教える (自給を促す) ⇒ 技術の移転・定着

独立行政法人 国際協力機構

JICA 4 国際協力の教訓の積み重ね

2. 「釣り」に例える国際協力の変遷 (中級編)
- ④ 村人に、漁の組織化 (組合) を提案 (互助、共助の精神・体制を育て) ⇒ 生産の拡大、産業化
- ⑤ 村人に、釣りや漁の条件・規制を提案 (漁業資源の持続性を考える) ⇒ リスクの回避、持続性
- ⑥ 村人に、海や川の水環境整備を提案 (漁場全体の保全を考える) ⇒ 恩恵を得る者の義務

独立行政法人 国際協力機構

JICA 4 国際協力の教訓の積み重ね

3. 「釣り」に例える国際協力の変遷 (上級編)
- ⑦ 村人が、個人や組合の漁獲だけでなく、サステイナビリティを考慮 (加工、輸送、販売) ⇒ 兼業全体を俯瞰する、8次産業化
- ⑧ 山や森林を育て (生態系全体の調和を目指す) ⇒ 環境・循環の考え方
- ⑨ AIによる漁業の管理、カーボンの為のふるかーボンの促進 ⇒ 子孫や地球の為

初級 ⇒ 援助・支援 (助ける、教える)  
中級 ⇒ 協力 (協働・提案)  
上級 ⇒ 共創・共生 (支え合う、対等なパートナー)  
三方よし (相手、自分、社会) ⇒ 四方よし (+ 環境・地球)

独立行政法人 国際協力機構

JICA 5 教訓の結論

国際協力には、相手の寄り添い、伴走とオン・オフの醸成が必要

- ⇒ 現地・現場を知る (環境、習慣、宗教、教育他)
- ⇒ 現地の人の立場になる (日本人としてではなく、現地人として)
- ⇒ 現地で生きる (死ぬまでそこで暮らす人の思いや自給) (他人事ではなく、自分事)

例: アフガニスタンに生涯をさげ、中村哲医師

- ⇒ パキスタンの辺境地でハンセン氏病対応 (孤軍奮闘)
- ⇒ 患者を治療しても、何が明かない (生活上の必要性)
- ⇒ 生きる糧は何か (食糧、生計向上、貧困からの脱却)
- ⇒ 砂漠に灌漑用水建設、10万人の農民が恩恵
- ⇒ 現地で、同様水路の建設やメンテができる (持続性)
- ⇒ 種 (食糧) が収穫でき、生計向上、健康改善、医師の本来

独立行政法人 国際協力機構

JICA 5 教訓の結論

アフガニスタン

灌漑前の砂漠 (2003年6月撮影)

灌漑後の作物畑 (2012年8月撮影)

独立行政法人 国際協力機構

JICA 私達にできること

「現地で生きる」訳にはいかない、日本からできる (日本にいてできる) 国際協力とは? 自分達の計画をイメージして、以下、自問する。

- ・「釣り」の変遷のどのステージに、どう関わるか?
- ・単独 (組織) での知見による実地で何とどこまでできるか?
- ・それによるアウトカムは見据えられるか?
- ・それによる費用対効果、説明責任が果たせるか?
- ・そもそも、その支援が「現地で生きる」人に、長らく喜んでもらえるか?

- ・単独でない場合、どんな知見や情報、資金があれば、計画が叶えられるか? (計画が軌道修正される有意義なコメントも有りではないか?)
- ・それが「勝ったパートナー」の場合、WinWinになれるか?
- ・WinWinのみならず、四方よしが見られるか?
- ・自分達の弱点を埋めて、WinWin、四方よしとなれる「パートナー」は?

独立行政法人 国際協力機構

JICA 私達にできること

- ・例えば、8兆円超の資本金のJICAも、途上国における課題対応を行うには、もう自前の資金や技術、情報だけでは立ち行かない!
- ・海外では、世界銀行や地域共同体、他国援助機関、民間財団など、また、国内では、自治体、民間企業 (大・中・小) 団体、NGO、教育機関 (大学等) 等を、イコールパートナーとして「連携」事業を実施。今は All Japan!
- ・JICAの強み: 開発途上国での長年の協力実績と現地で得た信頼、現地拠点機能、現場主義で常時約10,000人の関係者が現地に、そしてJICA以外の方々に活用可能なプログラムが豊富。(5頁表の7事業)
- ・JICA以外にも、今や、開発途上で活躍する組織・企業・団体・NGO・大学等は数え切れない。いずれもが、「連携」を模索している。

独立行政法人 国際協力機構

JICA 私達にできること

⇒ 「どんな事業を独自に展開するか」ではなく、

「誰と組んで目標を達成するか!」  
「それによる相乗効果も期待!」

多様化、情報化の時代、  
パートナー選びが、勝敗のカギを握る!

独立行政法人 国際協力機構

## 12月は疾病予防と治療月間です

私達にできること	
プログラム	<a href="https://www.jica.go.jp/domestic/kuobu/index.html">https://www.jica.go.jp/domestic/kuobu/index.html</a>
1.技術協力研修員受入事業	<a href="https://www.jica.go.jp/domestic/kuobu/activities/technical/index.html">https://www.jica.go.jp/domestic/kuobu/activities/technical/index.html</a>
2.開発教育支援事業	<a href="https://www.jica.go.jp/domestic/kuobu/activities/development/index.html">https://www.jica.go.jp/domestic/kuobu/activities/development/index.html</a> <a href="https://www.jica.go.jp/domestic/kuobu/activities/development/CA_sakuba_09_2.pdf">https://www.jica.go.jp/domestic/kuobu/activities/development/CA_sakuba_09_2.pdf</a>
3.JICAボランティア事業(協力隊)	<a href="https://www.jica.go.jp/domestic/kuobu/activities/volunteer/index.html">https://www.jica.go.jp/domestic/kuobu/activities/volunteer/index.html</a> <a href="https://www.jica.go.jp/resource/kuobu/interprise/volunteer/kyuiproposesept-2019/amphibol_02araku.pdf">https://www.jica.go.jp/resource/kuobu/interprise/volunteer/kyuiproposesept-2019/amphibol_02araku.pdf</a>
4.草の根技術協力事業	<a href="https://www.jica.go.jp/domestic/kuobu/activities/grass/index.html">https://www.jica.go.jp/domestic/kuobu/activities/grass/index.html</a> <a href="https://www.jica.go.jp/domestic/kuobu/activities/grass/kuobu/interprise/volunteer/kyuiproposesept-2019/amphibol_02araku.pdf">https://www.jica.go.jp/domestic/kuobu/activities/grass/kuobu/interprise/volunteer/kyuiproposesept-2019/amphibol_02araku.pdf</a>
5.民間連携事業(中小企業支援)	<a href="https://www.jica.go.jp/domestic/kuobu/activities/interpartner/index.html">https://www.jica.go.jp/domestic/kuobu/activities/interpartner/index.html</a>
6.外国人労働者入札・多文化共生社会構築に向けた取組	<a href="https://www.jica.go.jp/domestic/kuobu/activities/multicultural/index.html">https://www.jica.go.jp/domestic/kuobu/activities/multicultural/index.html</a>
7.農業共創ハブ-農業農村開発協力人材育成	<a href="https://www.jica.go.jp/domestic/kuobu/activities/agricultural/index.html">https://www.jica.go.jp/domestic/kuobu/activities/agricultural/index.html</a> アガザミ



### 出席報告 淀名和茂彦委員長

会員総数	出席者数	欠席者数	出席免除	メーク	出席率
51名	31名	19名	1名	19名	100.00%

**ニコニコボックス** 鈴木勝久委員 入金額 14,000円 累計 924,000円

JICA 小澤様、野口様、情野様、河内様ようこそいらっしゃいました。小澤様本日はよろしくお願ひ申し上げます。 五木田会員

JICA 筑波センター小澤様卓話宜しくお願ひ致します。 大澤会員

JICSの皆様本日宜しくお願ひ致します。 石井会員

JICA 筑波センターの皆様卓話宜しくお願ひ致します。 斎藤(広)会員

JICA 筑波センター小澤様ようこそお越し下さいました。本日の卓話宜しくお願ひ致します。中嶋(利)会員  
本日も宜しくお願ひ致します。 宮本会員

早退します。 能勢会員

欠席が続きました。 染谷(秀)会員

例会欠席しました。 鯉沼会員

欠席続いてしまい申し訳ございません。 青島会員

会報委員会 松坂興一委員長 宮代 尚副委員長 青島弘典委員



写真提供者: 青木正弘会員

12月は疾病予防と治療月間です

# 忘年会写真集

2024年11月30日 於:ホテルグランド東雲



12月は疾病予防と治療月間です



写真提供者:宮代 尚会員、青木正弘会員